

ピアスタフたちによる約2万羽の折鶴で作られた看板も設置



ねむけなんて吹き飛ばせ！ オールナイトミニバレー大会開催

今年で13回目となる鏡町青年団主催のオールナイトミニバレー大会が10月1日から2日にかけて鏡体育館で行われ、33チーム約200人が参加し、多くの熱戦が繰り広げられました。

午後6時から翌朝午前6時までの12時間という長時間のなか、疲れや眠気を吹き飛ばすようなアタックや応援合戦の一方、コートの外では、作戦会議という名の飲食会などもあり、参加者一丸となって大会を盛り上げていました。

この大会は、今後も続けていくそうで、家族や友人などを誘って、来年もみんなで盛り上がるようにしたいとのことでした。



カンボジアとの交流の架け橋へ ペン・ロッターナ氏来代

今年10月よりカンボジアから中九州短期大学へ留学しているペン・ロッターナさんが、市を訪問しました。この留学は、昨年、人権NPO法人ちなもいが地雷廃絶を訴え続け、ノーベル平和賞受賞したカンボジアのトゥン・チャナレット氏を八代へ招聘したことがきっかけとなって、実現したものです。

ペンさんは、平成19年9月まで八代に滞在する予定で、「留学中、日本の文化のほかに医療や教育、交通マナーなども勉強し、カンボジアの子どもたちの意識を高める組織体制づくりに生かしていきたい」と大変意気込んでいました。



▲市長(左)と会談するペンさん(右から2番目)

山頭火の世界を堪能 9月は日奈久で山頭火



山頭火フォーラム(上)フィナーレ(右)いで湯寄席(下)の模様

Town Topics

～まちのわだい～

今年で6回目を迎えた「9月は日奈久で山頭火」イベントが1か月に渡り開催され、大勢の人で賑わいました。

9月17日は、日奈久温泉センターで、笑福亭仁智さんによる「日奈久いで湯寄席」が行われ、小話や古典落語を交えた巧みな話術に、会場は笑いの渦に包まれていました。

また、24日には、やつしろハーモニーホールで「第14回全国山頭火フォーラムin日奈久」があり、哀愁漂うギターや歌のメロディーをBGMに、行乞記の朗読や即興で書や絵が描かれ、全国各地から参加した約250人を魅了しました。25日は、山頭火の足取りをたどるバスツアーや山頭火ウォークもあり、参加者たちは快晴の空の下、秋風に吹かれながらゆっくりとした時間を楽しんでいました。

30日のフィナーレでは、日奈久出身で現在京都で活躍中の舞踏家、山口陽子さんによる幻想的なダンスや全国的・国際的にも活躍中の秀岳館高校の雅太鼓の勇壮な響きでイベントを締めくくりました。

10代の心のオアシスに 思春期相談室クローバー開設

10月2日、本町三丁目商店街の「ふれあいサロン」内に、思春期相談室「ほっとステーション クローバー」がオープンしました。これは、県と八代地域の保健師や医療機関が協力し開設されたもので、玉名市に次いで2番目となります。

この相談室では、思春期の子どもたちの性の悩みなどについて、養成講座を受講した熊本労災看護専門学校や八代高専生のピアスタフ30人が中心となって対応し、熊本労災病院や八代総合病院の助産師や八代地域の保健師などが専門的なサポートを行います。また、運営は県内の助産婦などで構成された「助産婦ネットワーク with KUMAMOTO」(怒留湯美季代表)が、県から委託され行っています。相談室は、毎週土・日曜日午後2～6時に開所。ピアスタフ2～4人と専門職スタッフで対応しています。

海上での救出作戦 水難救助合同訓練



9月27日、県南地域の4消防本部(八代・人吉下球磨・水俣芦北・上球磨)の水難救助隊員と民間で組織されている九州管区陸海空海難救助隊による合同水難救助訓練が八代海でありました。この訓練は、今年で2回目となり、水難事故からの救助技術の向上を目的として行われています。

今回の訓練は、船舶からの転落事故を想定したもので、水深8メートルの海底を捜索し、船舶から転落した人を発見。救出するまでを迅速かつ的確に行われました。

秋空のもと各地域で熱戦！ 坂本町内各地域運動会



坂本町では、9月18日から10月23日にかけて各地域振興会の主催で地域の運動会が行われ、大勢の住民が参加しました。

今年は、小さな子どもからお年寄りまで多くの住民が参加できるレクリエーション的な競技を増やすなど、それぞれの地域の特性にあわせた運動会となり、参加者たちは、地域住民の交流と親睦を図る有意義な一日を過ごしていました。

女相撲奉納 竜神社秋の大祭

10月5日、千丁町古閑出にある竜神社で千丁町女相撲保存会による郷土芸能の女相撲が奉納されました。

今から150年ほど前の安政2年、二の丸八代新地(千丁町古閑出の一部)干拓での潮止は、失敗を繰り返す難工事だったため、当時の奉行が屈強の相撲取りを動員し、潮止口を踏み固めながら工事を完成させたと言われています。それ以来、経緯は不明ですが、女性を主役に平和と安住を祝福する「女相撲」として、現在も継承されています。今年は、コミュニティ助成事業により化粧まわしなどを新調。奉納当日、あいにくの雨にも負けず、力士たちは、迫力ある土俵入りや取り組みで、集まった人たちを魅了していました。



▶土俵入りする女力士たち